

学校名	千葉県市川市立行徳小学校

活動のテーマ	目指せ、行徳の減災メッセンジャー
主な教科領域等	総合的な学習の時間
対象学年／参加生徒数	6 学年 178 人 (複数可)
活動に携わった教員数	7 人
活動に参加した地域住民・保護者等の人数	50 人【保護者・地域住民・その他()】 ※児童生徒・教員以外で活動に参加した人の区分に丸をつけ、人数をお書きください。(複数可)
実践期間	平成 27 年 6 月 24 日 ～ 平成 28 年 3 月 11 日
想定した災害	複数可：地震・津波・台風・洪水・河川氾濫 土砂・その他()

活動報告

1) 活動の目的・ねらい

- 1、被災経験がない児童だけに、学習を通して地震や災害によって起こる事象を具体的にイメージし、当事者意識を持たせることで、自分の命を守るために何ができるのか考え、行動する能力を育成する。
- 2、家族や地域に生活をしている大人の意識を変えるべくメッセンジャーとしての役割を担う中で、避けることのできない自然災害と向き合う生き方の基礎を作っていきたい。

2) 実践内容・実践の流れ・スケジュール (※図表等を使用して分かりやすく記述してもよい)

学習活動計画 (全70時間)

第一次 自然災害が起きると、どうなるのだろう?(ふれる、つかむ)12時間

- (1) 災害に対するイメージを広げよう (ウエビング)
- (2) 出前授業
 - ① 富浜や行徳・妙典で生じる被害 (市役所危機管理課) ②阪神淡路大震災の被災経験者 (保護者) の話
- (3) 東京臨海広域防災公園内そなエリアの見学
 - ① 地震発生後 72 時間の体験、ビデオ学習、防災備品の見学 ②地域や学校の取り組みについて知る。
- (4) 今、首都直下型の地震が起きたら、『生き残る』ことが出来ますか。
 - ① 『生き残る』ことができない理由をまとめ、課題作りにつなげる。②防災備品と家具の固定について調べる。

第二次 『生き残る』ためにはどうしたらよいのだろうか?(探究する)30時間

- (1) 出前授業
 - ① 救助者 (消防・自衛隊・ボランティア) の話 ②関ヶ島地域の方の話 (マップ作りの経緯) ③校長先生、教頭先生の話 (学校の役割)
- (2) 課題別に調べたり、みんなで体験したりしよう
 - ① 防災備品 ②非常食 (サバイバルクッキング) ③マップ作り (地域の方から情報を得る) ④減災ポスター、減災だより (減災意識を高めるためには) ⑤避難所生活について (疑似体験など) ⑥救急法 (身近な道具を使った応急処置の仕方)

第三次 学校や家庭・地域の人に伝えよう!(まとめ、生かす)28時間

- (1) 行徳っ子祭りで減災ブースを作り、地域の方や保護者に公開
- (2) 校内に学習の成果物を展示
- (3) 広報活動
 - ① 減災ポスター、減災マップ ②減災カルタや危険を知らせるマーク ③活動報告会 (3.11 防災の日)

3) 9月研修会での学びから自校の実践に活かしたこと、研修会を受けての自校の活動の変更・改善点、昨年度まで(助成金を受ける前)の実践と今年度の実践で変わった点、助成金の活用で可能になったことなど。

1、災害によって生じる事象を具体的にイメージできるように、気仙沼の様子を繰り返し伝えるとともに体験活動を多くした。



サバイバルクッキング

避難所設営

応急処置の学び合い

下駄箱は簡単に動く

通学路点検

2、助成金の使用で、減災マップを作り各家庭に配布できた。また、カルタや階段の掲示物や展示物の充実を図ることができた。

4) 実践の成果

①減災(防災)教育活動・プログラムの改善の視点から



地震のメカニズム、避難生活、応急処置などの公開・展示

カルタの文字を展示

減災マップ作り

自助については、1年間で学習することができた。共助・公助については、学習の積み重ねの上にあるので、共助・公助まで学習することができるようなプログラムの改善が必要であった。

②児童生徒にとって具体的にどのような学び(変容)があり、どのような力(資質・能力・態度)を身につけたか。

- 1、自分でイメージし、考え、行動できるようになってきた。
- 2、自然災害が遠い世界で起きているのではなく、自分の身にも起きると考えられるようになった。
- 3、考えを出し合いながら、学習に取り組む姿が多くみられるようになった。

③教師や保護者、地域、関係機関等(児童生徒以外)の視点から

- 1、保護者の意識が変わり、児童の活動に関心を持つと共に、協力的である。
- 2、そなエリア、消防署、危機管理室と関連して学習を進めたことが災害をイメージする力につながった。
- 3、マップ作りや地域防災訓練など地域とともに活動する時間が十分とれなかった。

5) 自校の実践で工夫した点、特筆すべき点

- 1、地域との結びつきが強い学校なので、学習の成果を地域にも公開することができた。
- 2、校内に『減災コーナー』を作り、学習の成果物を展示する。

6) 実践から得られた教訓や課題と今後の改善に向けた方策や展望

- 1、起きるであろう災害を具体的にイメージさせていくこと。
- 2、決して「こうするとよい」という発信の仕方にしないこと。
- 3、共助や公助について学習を積み重ねていくためのプログラムの開発
- 4、大人の意識を変えていくための活動、地域への働きかけなど